

<マニュアル訂正連絡票>

ASP Systemwalker ListWORKS 説明書 V28

[J2K0-5810-01-A]

2018年12月25日発行

修正箇所（章節項）：8.1.2 Web ゲートウェイの機能一覧

以下の内容は、V28（U18121 適用時以降）に限定される記事です。

旧記事

Web ゲートウェイでは、以下の機能を利用できます。

1) ユーザ認証

リスト管理サーバに登録されているユーザ ID、パスワードに従ってユーザ認証を行います。

新記事

1) ユーザ認証

リスト管理サーバに登録されているユーザ ID、パスワードに従ってユーザ認証を行います。

認証方法については、以下の 2 通りの方法があります。

- ・ Java アプレットを使用する場合
- ・ Java アプレットを使用しない場合

それぞれの方法については、“[Systemwalker ListWORKS 操作手引書](#)”を参照してください。

注意事項

Java アプレットを使用する場合、ユーザ ID/パスワードは暗号化されますが強度は低いです。Java アプレットを使用しない場合、ユーザ ID/パスワードは暗号化されません。セキュリティを強化したい場合、ネットワークセキュリティを導入し、SSL を使用してください。

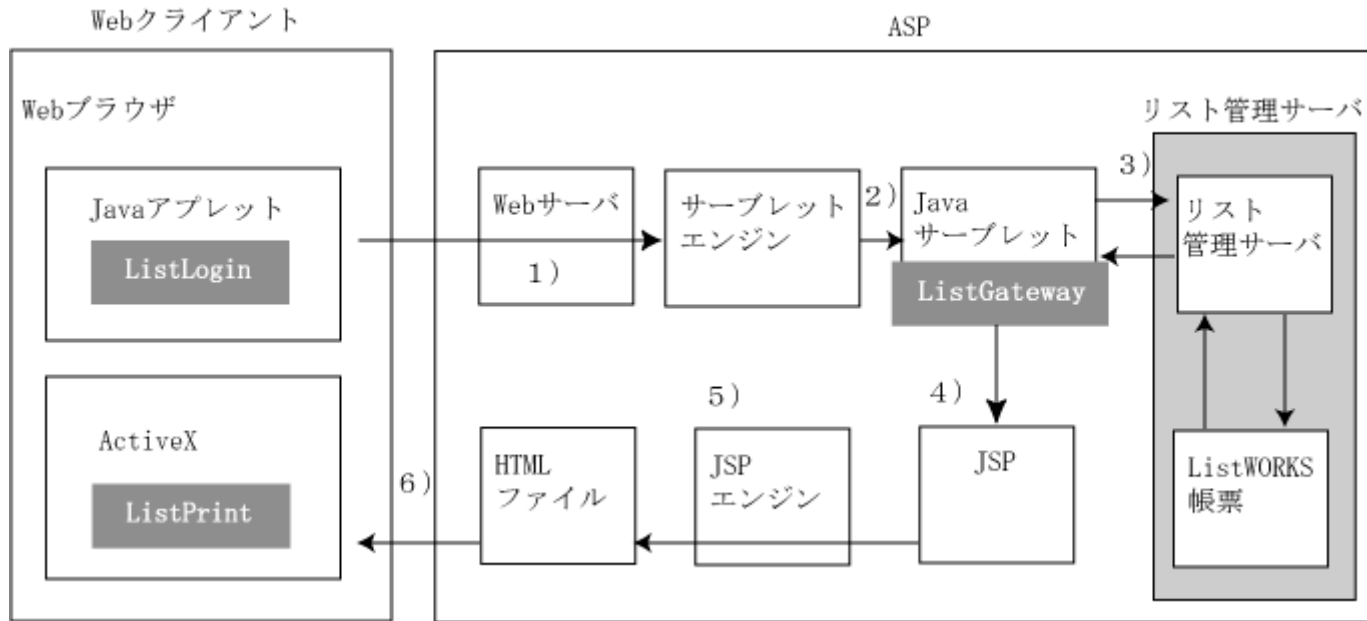
修正箇所（章節項）：8.1.3 Web ゲートウェイの動作環境

以下の内容は、V28（U18121 適用時以降）に限定される記事です。

旧記事

Web ゲートウェイは ASP の UXF 環境でサーブレットとして動作し、WWW ブラウザに ListWORKS 帳票の一覧を表示したり、帳票の表示機能を提供します。

Web ゲートウェイの動作概要を以下に示します。

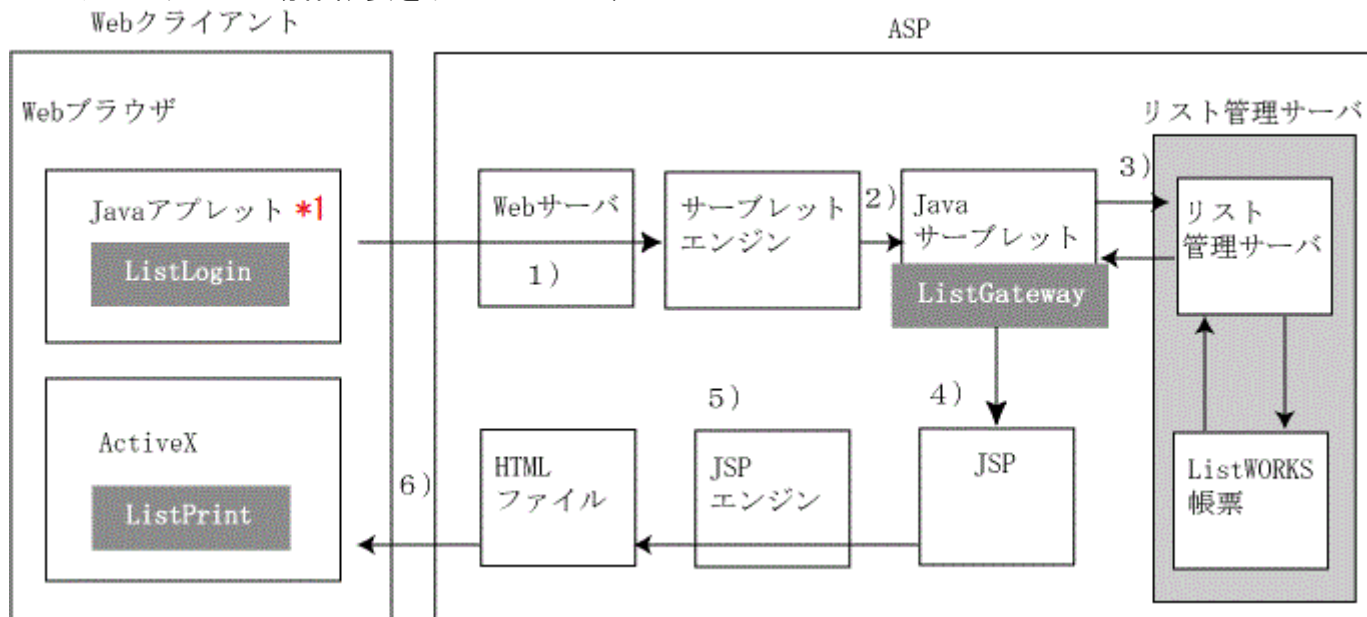


- 1) クライアントからの処理要求をサーブレットエンジンへ送信する。
- 2) サーブレットエンジンは処理要求に該当するサーブレットを起動する。

新記事

Web ゲートウェイは ASP の UXF 環境でサーブレットとして動作し、Web ブラウザに ListWORKS 帳票の一覧を表示したり、帳票の表示機能を提供します。

Web ゲートウェイの動作概要を以下に示します。



*1) Java アプレットを使用するログイン(ユーザ認証)を使用した場合、Web ブラウザにダウンロードされます

- 1) クライアントからの処理要求をサーブレットエンジンへ送信する。
- 2) サーブレットエンジンは処理要求に該当するサーブレットを起動する。

修正箇所（章節項）：8.2.1.5 Web アプリケーション・環境定義ファイルの設定
以下の内容は、V28（U18121 適用時以降）に限定される記事です。

旧記事

Web アプリケーション・環境定義ファイルの設定内容について説明します。

以下の図において、下線の部分は必要に応じて変更する箇所を示します。

Web アプリケーション・環境定義ファイル(/optx/lve/gateway/WEB-INF/web.xml)
(1)

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>

<!DOCTYPE web-app
  PUBLIC "-//Sun Microsystems, Inc.//DTD Web Application 2.3//EN"
  "http://java.sun.com/dtd/web-app_2_3.dtd">

<web-app>
  <servlet>
    <servlet-name>ListGateway</servlet-name>
    <servlet-class>com.fujitsu.systemwalker.listworks.gateway.app.ListGateway</servlet-class>
    <init-param>
      <param-name>app.path</param-name>
      <param-value>/optx/lve</param-value>
    </init-param>
  </servlet>
  <welcome-file-list>
    <welcome-file>
      jsp/login.jsp
    </welcome-file>
  </welcome-file-list>
</web-app>
```

- 1) Web アプリケーション・環境定義ファイルのファイル名は(1)のように web.xml としてください。また web.xml は、Web アプリケーション・ルートディレクトリ直下の WEB-INF ディレクトリ直下に格納してください。
- 2) パッケージの格納ディレクトリをデフォルトのディレクトリから変更した場合、(2)に変更したディレクトリを指定してください。

新記事

Web アプリケーション・環境定義ファイルの設定内容について説明します。

以下の図において、下線の部分は必要に応じて変更する箇所を示します。

Web アプリケーション・環境定義ファイル(/optx/lve/gateway/WEB-INF/web.xml)
(1)

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>

<!DOCTYPE web-app
  PUBLIC "-//Sun Microsystems, Inc.//DTD Web Application 2.3//EN"
  "http://java.sun.com/dtd/web-app_2_3.dtd">

<web-app>
  <servlet>
    <servlet-name>ListGateway</servlet-name>
    <servlet-class>com.fujitsu.systemwalker.listworks.gateway.app.ListGateway</servlet-class>
    <init-param>
      <param-name>app.path</param-name>
      <param-value>/optx/lve</param-value>
    </init-param>
  </servlet>
  <welcome-file-list>
    <welcome-file>
      jsp/login.jsp
    </welcome-file>
  </welcome-file-list>
</web-app>
```

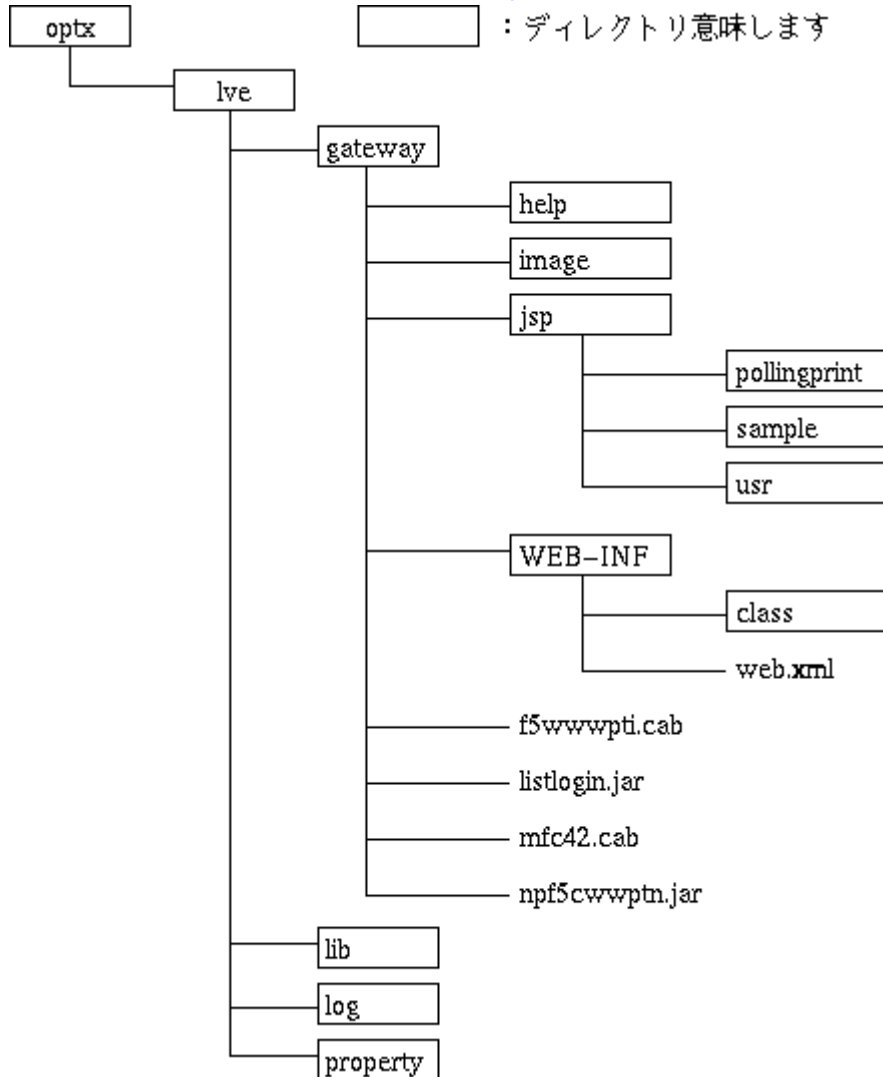
- 1) Web アプリケーション・環境定義ファイルのファイル名は(1)のように web.xml としてください。また web.xml は、Web アプリケーション・ルートディレクトリ直下の WEB-INF ディレクトリ直下に格納してください。
- 2) パッケージの格納ディレクトリをデフォルトのディレクトリから変更した場合、(2)に変更したディレクトリを指定してください。
- 3) Java アプレットを使用しないログイン(ユーザ認証)を使用し、かつ“http://ホスト名[:ポート番号]/listworks/”でリスト管理サーバに接続したい場合は、(3)に jsp/form/login.jsp を指定してください。

修正箇所 (章節項) : 8.2.4 Web ゲートウェイのディレクトリ構成
 以下の内容は、V28 (U18121 適用時以降) に限定される記事です。

旧 記 事

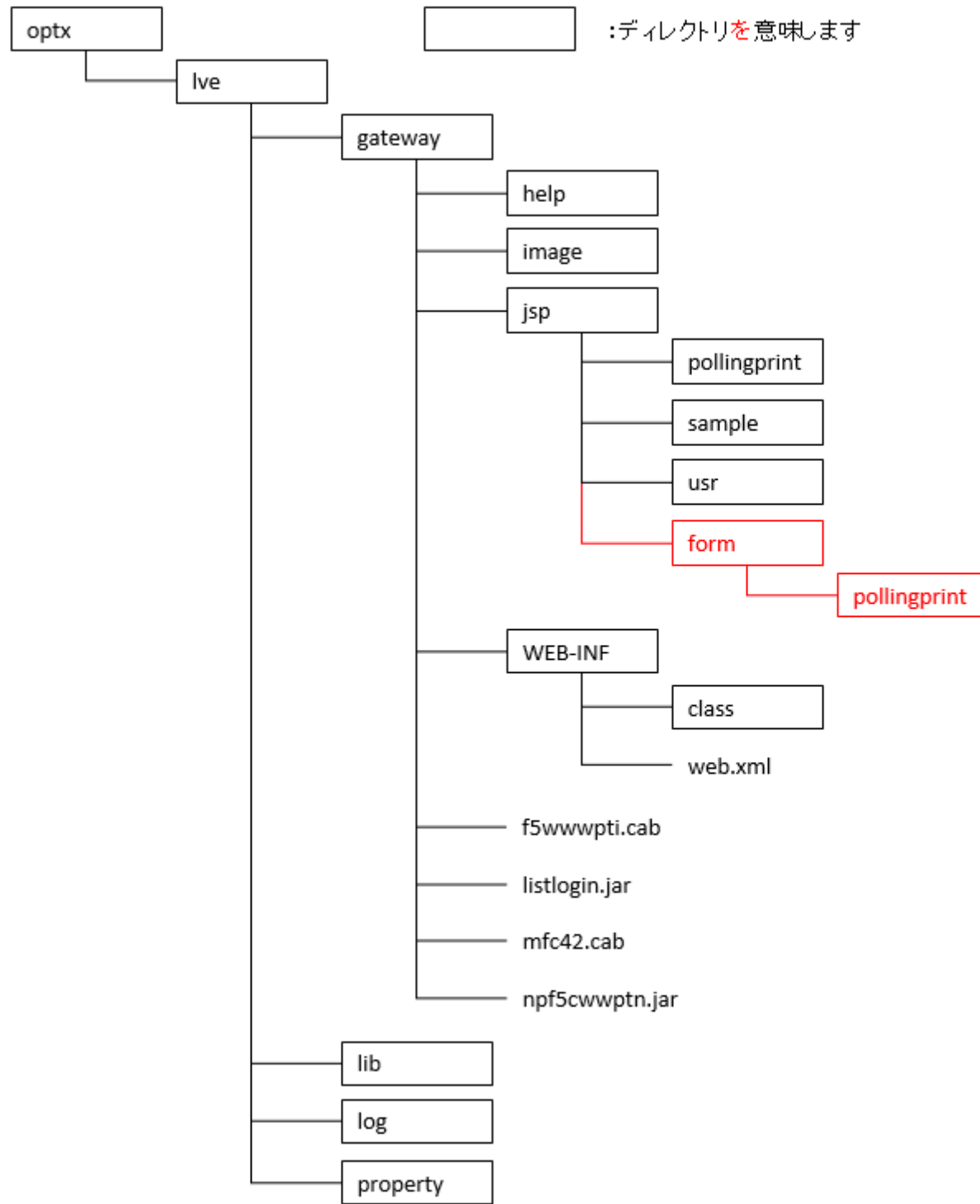
Web ゲートウェイのディレクトリ構成を以下に示します。

図 8.2 Web ゲートウェイのディレクトリ構成



Web ゲートウェイのディレクトリ構成を以下に示します。

図 8.2 Web ゲートウェイのディレクトリ構成



修正箇所 (章節項) : 8.3.2.1 Web クライアントが使用するプログラム
 以下の内容は、V28 (U18121 適用時以降) に限定される記事です。

Web クライアントは、処理によって使用しているプログラムが異なります。

これらのプログラムはサーバに格納され、実行時にダウンロードされます。

処理	使用しているプログラム
ログイン画面	Java
帳票一覧画面	HTML
帳票表示画面, 印刷処理	ActiveX (R)

新記事

Web クライアントは、処理によって使用しているプログラムが異なります。

これらのプログラムはサーバに格納され、実行時にダウンロードされます。

処理	使用しているプログラム
ログイン画面	Java アプレットを使用する ・ Java/HTML Java アプレットを使用しない ・ HTML
帳票一覧画面	HTML
帳票表示画面、印刷処理	ActiveX (R)

2017年12月26日発行

修正箇所 (章節項) : 7.4.1 部門の作成

旧記事

以下に入力項目について説明します。

(1) 部門名

作成する部門名を入力してください。

部門名は 16 文字以内の英大文字および数字で指定してください。

(2) パス名

部門を作成するディレクトリまでのパス名を入力してください。

パス名には絶対パス名、または相対パス名を 168 文字以内の文字列で指定してください。

新記事

以下に入力項目について説明します。

(1) 部門名

作成する部門名を入力してください。

部門名は 16 文字以内の英大文字および数字で指定してください。

(2) パス名

部門を作成するディレクトリまでのパス名を入力してください。

パス名には絶対パス名を 151 文字以内の文字列で指定してください。

2017年4月26日発行

修正箇所 (章節項) : 5.1.2 電子メール (e-mail) による登録完了通知 注意事項

旧記事

注意事項

電子メールの宛先 (MAIL-TO=) の指定について、以下の注意が必要です。

- ・メールの宛先はシングルクォーテーションマーク (') で囲んで指定してください。
- ・メールの宛先には、“エイリアス”を指定することも可能です。“エイリアス”については、“[インターネットメールサーバ説明書](#)”を参照してください。
- ・宛先の指定に誤りがあった場合やメールの宛先が存在しなかった場合の動作は、ASP システムコマンドの「SNDEMAIL コマンド」の設定に従います。詳細については“[システムコマンド集](#)” および “[インターネットメールサーバ説明書](#)”を参照してください。

新記事

注意事項

- ・ 電子メールの宛先 (MAIL-TO=) の指定について、以下の注意が必要です。
 - － メール宛先はシングルクォーテーションマーク (') で囲んで指定してください。
 - － メール宛先には、“エイリアス”を指定することも可能です。“エイリアス”については、[“インターネットメールサーバ説明書”](#)を参照してください。
 - － 宛先の指定に誤りがあった場合やメールの宛先が存在しなかった場合の動作は、ASP システムコマンドの「SNDEMAIL コマンド」の設定に従います。詳細については[“システムコマンド集”](#) および [“インターネットメールサーバ説明書”](#)を参照してください。
- ・ メール発信者は、“*FUJITSU + @ + ドメイン名”となります。

修正箇所 (章節項) : 5.1.3 電子メール (e-mail) による電子帳票の送信 注意事項

旧記事

注意事項

- ・ 同報アドレス (EML-CC=) , 隠し同報アドレス (EML-BCC=) の指定については、以下の注意が必要です。
 - － メール宛先はシングルクォーテーションマーク (') で囲んで指定してください。
 - － メール宛先には、“エイリアス”を指定することも可能です。“エイリアス”については、[“インターネットメールサーバ説明書”](#)を参照してください。
 - － 宛先の指定に誤りがあった場合やメールの宛先が存在しなかった場合の動作は、ASP システムコマンドの「SNDEMAIL コマンド」の設定に従います。詳細については[“システムコマンド集”](#) および [“インターネットメールサーバ説明書”](#)を参照してください。
- ・ 帳票/PDF 送信 (EML-SND=) およびオーバーレイの添付指定 (EML-OVL=) については、以下の注意が必要です。
 - － 電子メールで送信した ListWORKS 帳票とオーバーレイを受信先で参照する場合は、ListWORKS 帳票とオーバーレイを同一フォルダに格納してください。同一フォルダに存在しない場合は、参照できない場合があります。
 - － 帳票/PDF 送信およびオーバーレイの添付指定については、ASP システムコマンドの「SNDEMAIL コマンド」の「PATH」および「ATTACH」の両オペランドに従います。詳細については、“[システムコマンド集](#)” および [“インターネットメールサーバ説明書”](#)を参照してください。

新記事

注意事項

- ・ 同報アドレス (EML-CC=) , 隠し同報アドレス (EML-BCC=) の指定については、以下の注意が必要です。
 - － メール宛先はシングルクォーテーションマーク (') で囲んで指定してください。
 - － メール宛先には、“エイリアス”を指定することも可能です。“エイリアス”については、[“インターネットメールサーバ説明書”](#)を参照してください。
 - － 宛先の指定に誤りがあった場合やメールの宛先が存在しなかった場合の動作は、ASP システムコマンドの「SNDEMAIL コマンド」の設定に従います。詳細については[“システムコマンド集”](#) および [“インターネットメールサーバ説明書”](#)を参照してください。
- ・ 帳票/PDF 送信 (EML-SND=) およびオーバーレイの添付指定 (EML-OVL=) については、以下の注意が必要です。
 - － 電子メールで送信した ListWORKS 帳票とオーバーレイを受信先で参照する場合は、ListWORKS 帳票とオーバーレイを同一フォルダに格納してください。同一フォルダに存在しない場合は、参照できない場合があります。
 - － 帳票/PDF 送信およびオーバーレイの添付指定については、ASP システムコマンドの「SNDEMAIL コマンド」の「PATH」および「ATTACH」の両オペランドに従います。詳細については、“[システムコマンド集](#)” および [“インターネットメールサーバ説明書”](#)を参照してください。
- ・ メール発信者は、“*FUJITSU + @ + ドメイン名”となります。

修正箇所 (章節項) : 5.1.4 システムメッセージ (送信メッセージ) と電子メール (e-mail) の両方による通知

旧記事

5.1.4 システムメッセージ (送信メッセージ) と電子メール (e-mail) の両方による通知

帳票を登録後、システムメッセージ (送信メッセージ) , 電子メール (e-mail) の順で登録の完了を通知します。

システムメッセージ（送信メッセージ）および電子メール（e-mail）を通知後、「S7672 A 印刷データの登録が完了しました
補足情報：スプールファイル名 | 識別番号, ジョブ名, プロフィール名, 登録開始時刻, 登録終了時刻」のシステムメッセージを通知します。

この形態で登録の完了を通知する場合は、配信連携定義記述またはセパレータ配信情報に以下のオペランドを指定してください。

情報名	オペランド	指定する値
登録完了通知	INFORM-MSG=	3
システムメッセージの宛先	SYMSMSG-T0=	ジョブ名. プロフィール名
電子メール（e-mail）の宛先	MAIL-T0=	‘宛先’ インターネットメールの宛先を 100バイト以内の文字列で指定
メールの表題	MAIL-SUB=	メールの表題を 48 バイト以内の 文字列で指定

- ・システムメッセージ（送信メッセージ）での通知に失敗しても、電子メール（e-mail）で帳票の登録完了を通知します。
- ・システムメッセージ（送信メッセージ）、電子メール（e-mail）両方の登録完了通知で失敗した場合は、システムメッセージ（送信メッセージ）で失敗した原因を優先して表示します。

新記事

5.1.4 システムメッセージ（送信メッセージ）と電子メール（e-mail）の両方による通知

帳票を登録後、システムメッセージ（送信メッセージ）、電子メール（e-mail）の順で登録の完了を通知します。

システムメッセージ（送信メッセージ）および電子メール（e-mail）を通知後、「S7672 A 印刷データの登録が完了しました
補足情報：スプールファイル名 | 識別番号, ジョブ名, プロフィール名, 登録開始時刻, 登録終了時刻」のシステムメッセージを通知します。

この形態で登録の完了を通知する場合は、配信連携定義記述またはセパレータ配信情報に以下のオペランドを指定してください。

情報名	オペランド	指定する値
登録完了通知	INFORM-MSG=	3
システムメッセージの宛先	SYMSMSG-T0=	ジョブ名. プロフィール名
電子メール（e-mail）の宛先	MAIL-T0=	‘宛先’ インターネットメールの宛先を 100バイト以内の文字列で指定
メールの表題	MAIL-SUB=	メールの表題を 48 バイト以内の 文字列で指定

- ・システムメッセージ（送信メッセージ）での通知に失敗しても、電子メール（e-mail）で帳票の登録完了を通知します。
- ・システムメッセージ（送信メッセージ）、電子メール（e-mail）両方の登録完了通知で失敗した場合は、システムメッセージ（送信メッセージ）で失敗した原因を優先して表示します。

注意事項

メールの発信者は、“*FUJITSU + @ + ドメイン名”となります。

修正箇所（章節項）： 9.4.5 連携オプションの定義削除

旧記事

新記事追加

9.4.5 連携オプションの定義削除

連携オプションで不要となった定義を削除する手順を以下に示します。

[Windows®サーバでの作業]

- (1) 削除する定義の情報採取
帳票のダウンロード情報から、以下の情報を採取します。

【連携オプション】ダイアログボックスで定義名を選択し、「情報変更」ボタンをクリックすることで情報を採取できます。

- ・「転送元 ASP 情報」の「サーバ名」
- ・「転送元 ASP 情報」の「帳票保管ディレクトリ名」
- ・「転送先自 PC 情報」の「格納フォルダ名」
- ・「メニューからの振分け条件」の「格納フォルダ名」
- ・「振分け定義ファイルからの振分け条件指定」の「定義ファイル名」

ポイント

- － 定義数が多く、情報採取が困難な場合は、設定ファイルをエディタ等で開いて、「定義名」または「帳票保管ディレクトリ名」で検索してください。帳票ダウンロード情報の定義ファイルは、連携オプションインストールフォルダ内の F3fuolgw1.ini になります。
 - － 「メニューからの振分け条件の格納フォルダ名」と「振分け定義ファイルからの振分け条件指定の定義ファイル名」は、「転送先自 PC 情報」の「振り分け条件による連携フォルダ名の指定(任意)」にチェックが入っている場合に採取してください。
- (2) 連携オプションの終了
連携オプションを終了させてください。常駐モードで使用している場合は、タスクトレイに連携オプションのアイコンがありますので、そのアイコンをクリックして、メニューより終了を選択します。
- (3) 設定ファイルの退避
連携オプションインストールフォルダ内の F3fuolgw.ini, F3fuolgw1.ini, F3fuolgw2.ini, F3fuolgw3.ini, F3fuolgw4.ini を退避してください。
- (4) 転送先自 PC 情報の格納フォルダ名の削除
Windows®サーバから、「転送先自 PC 情報」の「格納フォルダ名」を削除します。
- (5) 振分け条件の格納フォルダ名の削除
Windows®サーバから、「メニューからの振分け条件」の「格納フォルダ名」を削除します。
- ※振分け条件を使用していない場合は、本手順は不要です。
- (6) 定義ファイル名の振分け先フォルダパス名の削除
Windows®サーバから、「振分け定義ファイルからの振分け条件指定」の「定義ファイル名」に記載されている振分け先フォルダパス名(SplselFolder=)のフォルダを削除します。
- ※振分け条件を使用していない場合は、本手順は不要です。
- (7) 定義ファイル名の振分け条件の削除
「振分け定義ファイルからの振分け条件指定」の「定義ファイル名」に記載されている、不要となった振分け条件を削除します。
- ※振分け条件を使用していない場合は、本手順は不要です。
- (8) 帳票のダウンロード定義の削除
帳票ダウンロード情報を削除します。【連携オプション】ダイアログボックスで定義名を選択し、「情報削除」ボタンをクリックします。
- (9) Windows 版 List Works サーバ連携情報の削除
Windows 版 List Works サーバ連携情報を削除します。【連携オプション】ダイアログボックスで定義名を選択し、「情報削除」ボタンをクリックします。

[ASP サーバでの作業]

- (10) 帳票保管ディレクトリ名の管理簿の削除
「転送元 ASP 情報」の「サーバ名」の ASP サーバから、DLTLWDB コマンド、または CTLLWSYS コマンドで「転送元 ASP 情報」の「帳票保管ディレクトリ名」の管理簿を削除します。
- (11) 配信連携定義の削除と再設定
配信連携定義から、「転送元 ASP 情報」の「帳票保管ディレクトリ名」の管理簿に関する定義を削除し、SETLWINF コマンド、または CTLLWSYS コマンドで配信連携定義を再設定します。

配信連携定義の変更については、“3.13 配信連携定義の変更”を参照してください。

修正箇所 (章節項): 9.6.6 連携オプション使用時のセキュリティについて

旧記事

9.6.6 連携オプション使用時のセキュリティについて

連携オプションを使用する場合は、PRIMERGY 6000 および連携先 Windows®サーバ、およびその間のネットワークのセキュリティに配慮が必要です。

- ・連携オプション稼働中は Windows®サーバはユーザログインした状態となります。解除にパスワードが必要なスクリーンセーバを設定するなどして、部外者の操作を防止してください。
- ・連携オプションは PRIMERGY 6000 から帳票等のダウンロードに FTP プロトコルを使用します。この際、ネットワーク上に PRIMERGY 6000 のログイン id、パスワードが平文として流れます。PRIMERGY 6000 と Windows®サーバは、信用がおけるネットワークで接続してください。
- ・ファイアウォールの設定について
連携オプションを使用する前に、Windows ファイアウォールの設定を変更してください。
Windows Server 2008 の場合、標準状態で Windows ファイアウォールが有効なため、設定を変更せずに連携オプションを実行すると、接続エラーになります。

設定方法

- 1) [スタート]-[コントロールパネル]-[セキュリティ]-[Windows ファイアウォール]-[Windows ファイアウォールによるプログラムの許可]を選択する。
- 2) [例外]タブの[プログラムの追加(R)]ボタンを押下する。
- 3) [参照]ボタンから連携オプションのインストールディレクトリの” F3fuolgw.exe” を選択する。

新記事

9.6.6 連携オプション使用時のセキュリティについて

連携オプションを使用する場合は、PRIMERGY 6000 および連携先 Windows®サーバ、およびその間のネットワークのセキュリティに配慮が必要です。

- ・連携オプション稼働中は Windows®サーバはユーザログインした状態となります。解除にパスワードが必要なスクリーンセーバを設定するなどして、部外者の操作を防止してください。
- ・連携オプションは PRIMERGY 6000 から帳票等のダウンロードに FTP プロトコルを使用します。この際、ネットワーク上に PRIMERGY 6000 のログイン id、パスワードが平文として流れます。PRIMERGY 6000 と Windows®サーバは、信用がおけるネットワークで接続してください。
- ・ファイアウォールの設定について
連携オプションを使用する前に、Windows ファイアウォールの設定を変更してください。
設定を変更せずに連携オプションを実行すると、接続エラーになります。

設定方法

Windows Server 2008 の場合

- 1) [スタート]-[コントロールパネル]-[セキュリティ]-[Windows ファイアウォール]-[Windows ファイアウォールによるプログラムの許可]を選択する。
- 2) [例外]タブの[プログラムの追加(R)]ボタンを押下する。
- 3) [参照(B)]ボタンから連携オプションのインストールディレクトリの” F3fuolgw.exe” を選択する。

Windows Server 2008 R2 以降の場合

- 1) [スタート]-[コントロールパネル]-[システムとセキュリティ]-[Windows ファイアウォール]の [Windows ファイアウォールを介したプログラムまたは機能を許可]または[Windows ファイアウォールを介したアプリまたは機能を許可]を選択する。
- 2) [別のプログラムの許可(R)]ボタンまたは[別のアプリの許可(R)]ボタンを押下する。
- 3) [参照(B)]ボタンから連携オプションのインストールディレクトリの” F3fuolgw.exe” を選択する。

修正箇所 (章節項): 10.5.1 装置フォルダの作成 注意事項

旧記事

注意事項

- ・ネットワーク上に多くのコンピュータが接続されている場合は、接続情報の参照機能は使用しないでください。非常に時間がかかります。応答がない場合は Ctl+Alt+Dlt キーで強制終了させてください。
- ・CD-R へのファイリング時に、ファイリングサーバとして使用できるコンピュータは Windows XP のみです。『ListWORKS CD-ROM 作成 オプション』をインストールしてください。

新記事

注意事項

- ・ネットワーク上に多くのコンピュータが接続されている場合は、接続情報の参照機能は使用しないでください。非常に時間がかかります。応答がない場合は Ctl+Alt+Dlt キーで強制終了させてください。
- ・CD-R へのファイリング時に、ファイリングサーバとして使用できるコンピュータは Windows XP のみです。『ListWORKS CD-ROM 作成 オプション』をインストールしてください。
- ・装置フォルダを変更することはできません。装置フォルダを変更する場合は、装置フォルダを削除し、再作成をしてください。

修正箇所 (章節項): 10.5.5 装置フォルダ/グループフォルダの削除

旧記事

新記事追加

新記事

10.5.5 装置フォルダ/グループフォルダの削除

リスト管理サーバの装置フォルダおよびグループフォルダを削除するときは、以下の順序で操作します。

- 1) リストナビで、リスト管理サーバへ接続します。装置フォルダおよびグループフォルダを削除できるユーザ ID は XSYSMNGR のみです。
- 2) リストナビのフォルダペインから、リスト管理サーバのファイリングフォルダ配下の【グループ】および【装置】アイコンをクリックします。
- 3) 削除するフォルダを選択し、【管理】メニューの【削除】をクリックします。
→フォルダの削除を確認するためのダイアログボックスが表示されます。
- 4) 【はい】ボタンをクリックします。
→フォルダが削除されます。

注意事項

装置フォルダ削除時に右画面にグループ名のアイコンが表示される場合、右画面よりグループ名のアイコンをクリックし、全て削除してください。

修正箇所 (章節項): K.7.9 装置フォルダの削除が行えない

旧記事

新記事追加

新記事

K.7.9 装置フォルダの削除が行えない

“リスト管理サーバでエラーが発生しました 05DD068B”のエラーメッセージが表示される

原因 装置フォルダ配下にファイリング処理情報が存在しているためです。

対処 装置フォルダを選択後、リストナビの右画面よりグループ名のアイコンを選択し、全て削除してください。

修正箇所 (章節項): K.10.4 帳票, またはオーバーレイのダウンロードでダウンロードエラーとなる

旧記事

新記事追加

新記事

K.10.4 帳票, またはオーバーレイのダウンロードでダウンロードエラーとなる

連携オプションのログに「詳細情報: 2002270000002ee2」, または「2005270400002ee2」が出力される

原因 Windows ファイアウォールで連携オプションが許可されていません。

対処 Windows ファイアウォールで連携オプションを許可後, 再度ダウンロードをしてください。
詳しくは, ” 9.6.6 連携オプション使用時のセキュリティについて ” を参照してください。

2016年10月31日発行

修正箇所 (章節項): 付録 C.4 作業ディレクトリの見積り 付表 C.4 作業ディレクトリの見積り 付表 C.5 高速化ライタ時の見積り

旧記事

付表 C.4 作業ディレクトリの見積り

資源の種類	用途	備考
ListWORKS ライタの作業ファイル	(最大登録帳票サイズ×同時起動ライタ数) + 付表 C.5 高速化ライタ時の見積り	高速化ライタ起動時は付表 C.5 高速化ライタ時の見積りサイズが別途必要
退避復元作業ファイル	一度に退避, 復元する帳票の総サイズ	退避, 復元コマンド使用時

付表 C.5 高速化ライタ時の見積り

使用量 = (m × (1 ページ内の最大文字数 + 1) × (処理帳票の最大ページ数 + 1) + 変換プールファイルサイズ + 重畳するフォームオーバーレイパターンの総ファイルサイズ) × 3 × 同時動作数

※m は 1 ページ内の文字がシフト JIS コードで表現できる割合で決まります。
100%であれば, 0.12KB とし, 0%ならば 1.2KB とします。

付表 C.4 作業ディレクトリの見積り

資源の種類	用途	備考
ListWORKS ライタの作業ファイル	(最大登録帳票サイズ×同時起動ライタ数) + 128MB 以上 (高速化ライタ起動時)	高速化ライタ起動時は 128 MB 以上の見積りサイズが別途必要
退避復元作業ファイル	一度に退避, 復元する帳票の総サイズ	退避, 復元コマンド使用時

~~付表 C.5 高速化ライタ時の見積り~~

~~使用量 = (m × (1 ページ内の最大文字数 + 1) × (処理帳票の最大ページ数 + 1) + 変換スプールファイルサイズ + 重畳するフォームオーバーレイパターンの総ファイルサイズ) × 3 × 同時動作数~~

~~※m は 1 ページ内の文字がシフト JIS コードで表現できる割合で決まります。100%であれば、0.12KB とし、0%ならば 1.2KB とします。~~

修正箇所 (章節項): 付録 C.6 UXF 環境情報の設定

ListWORKS ライタが UXF 環境で動作する場合、UX メモリ容量を UXF 環境情報に設定する必要があります。

以下に、UX サイズ、UX スワップ域の使用量について示します。

UX サイズ

使用メモリ量 = 7,800KB
 + (1,200KB + m × (1 ページ内の最大文字数 + 1) × (処理帳票の最大ページ数 + 1) + 変換スプールファイルサイズ + 重畳するフォームオーバーレイパターンの総ファイルサイズ) × 同時動作数

※m は 1 ページ内の文字がシフト JIS コードで表現できる割合で決まります。100%であれば 0.06KB とし、0%ならば 0.6KB とします。

UX スワップ域

使用量 = 7,800KB
 + (1,200KB + m × (1 ページ内の最大文字数 + 1) × (処理帳票の最大ページ数 + 1) + 変換スプールファイルサイズ + 重畳するフォームオーバーレイパターンの総ファイルサイズ) × 同時動作数

※m は 1 ページ内の文字がシフト JIS コードで表現できる割合で決まります。100%であれば 0.12KB とし、0%ならば 1.2KB とします。

ListWORKS ライタが UXF 環境で動作する場合、UX メモリ容量を UXF 環境情報に設定する必要があります。

以下に、UX サイズ、UX スワップ域の使用量について示します。

帳票データの文字数やフォントパターン埋め込み文字の使用、フォームオーバーレイパターンの有無など、内容によって UXF 資源の使用量は著しく変化するため、推奨値は以下となります。

UX サイズ

搭載物理メモリにもよりますが、64MB 以上を推奨します。

ただし、大量ページ数の帳票や、JEF 拡張漢字、JEF 拡張非漢字、JIS 第 1 水準、および JIS 第 2 水準に含まれる旧字など、イメージとして埋め込まれる文字を多数使用している帳票を登録する場合は、128MB 以上を推奨します。

UX スワップ域

通常はシステムインストール時の初期設定値(168MB)で充分です。

ただし、大量ページ数の帳票や、JEF 拡張漢字、JEF 拡張非漢字、JIS 第 1 水準、および JIS 第 2 水準に含まれる旧字など、イメージとして埋め込まれる文字を多数使用している帳票を登録する場合は、256MB 以上を推奨します。

上記設定でも不足する場合は、帳票を分割し再度登録を実施するか、または不足した UXF 資源の設定値を拡張することで対応してください。

システムインストール時の初期設定値でも動作しますが、この場合の登録可能なページ数は、帳票データの内容により異なります。なお、システムインストール時の初期設定値は機種によって異なる為注意してください。

UX サイズ

使用メモリ量 = 7,800KB
+ (1,200KB + m × (1 ページ内の最大文字数 + 1))
× (処理帳票の最大ページ数 + 1)
+ 変換スプールファイルサイズ
+ 重畳するフォームオーバーレイパターンの総ファイルサイズ)
× 同時動作数

※mは1ページ内の文字がシフトJISコードで表現できる割合で決まります。
100%であれば0.06KBとし、0%ならば0.6KBとします。

UX スワップ域

使用量 = 7,800KB
+ (1,200KB + m × (1 ページ内の最大文字数 + 1))
× (処理帳票の最大ページ数 + 1)
+ 変換スプールファイルサイズ
+ 重畳するフォームオーバーレイパターンの総ファイルサイズ)
× 同時動作数

※mは1ページ内の文字がシフトJISコードで表現できる割合で決まります。
100%であれば0.12KBとし、0%ならば1.2KBとします。

2016年6月28日発行

修正箇所 (章節項): 8.2.3.1 ListGateway の環境設定 表 8.1 ListGateway に定義する定義名と定義内容

旧記事

session.inactiveinterval	セッションの有効時間を秒単位で指定します。 ListGateway に利用者がログオンし、ログオフするまでをセッションと呼びます。有効時間を超えて利用者からアクセスがない場合、自動的にセッションが終了し、切断されます。	600
--------------------------	--	-----

新記事

session.inactiveinterval	セッションの有効時間を秒単位で指定します。 ListGateway に利用者がログオンし、ログオフするまでをセッションと呼びます。有効時間を超えて利用者からアクセスがない場合、自動的にセッションが終了し、切断されます。 セッションの有効時間を指定する場合は、1~2147483647 の範囲で指定してください。 セッションの有効時間監視を行わない場合は、-1 を指定してください。 注意) セッションは、ログアウトボタンを押し、ログオフすると終了します。	600
--------------------------	--	-----

	<p>ログオフせずに Web ブラウザを終了したり、ネットワークの不具合や PC の異常で接続が切断したりした場合、セッション有効時間に-1 または長時間の指定をしていると、セッション維持のためのメモリ資源や有効セッション数が長時間占有され続けることとなります。</p> <p>24 時間運用の場合、またはメモリやセッション数に余裕がない場合は、セッション有効時間に-1 または長時間の指定をしないことをお勧めします。</p>	
--	---	--

2014 年 8 月 22 日発行

修正箇所 (章節項): 9.6.7 帳票のダウンロード時の帳票数について

旧記事

9.6.7 帳票のダウンロード時の帳票数について

帳票のダウンロード処理を実行する場合、【帳票のダウンロード情報】ダイアログボックスの「転送する帳票の種別」で指定した帳票は、【帳票のダウンロード情報】ダイアログボックスで指定した格納フォルダ内に 16384 個以下である必要があります。帳票は種別ごとにファイルの拡張子が異なります。

- ・ 帳票ファイル(拡張子が.SPM または.MGW のファイル)
- ・ 帳票エントリーファイル(拡張子が.SPN または.NGW のファイル)
- ・ ListWORKS 帳票(拡張子が.SPL または.LGW のファイル)

注)

拡張子が.MGW, .NGW, .LGW となっているファイルは、【TeamMail 連携情報】ダイアログボックスまたは【TeamMail 連携情報】ダイアログボックスまたは【Windows 版 List Works サーバ連携情報】ダイアログボックスで「次回実行時も連携対象とする」をチェックしていない状態で連携処理を実行した時に、連携済みとなったファイルです。

【帳票のダウンロード情報】ダイアログボックスで指定した格納フォルダに、「転送する帳票の種別」で指定した帳票が 16385 個以上存在した場合、帳票のダウンロード時にエラーとなり、連携オプションのログには `Exec Format Error 20022b0000000008` が出力されるので、以下の操作を行ってください。

- 1) 【帳票のダウンロード情報】ダイアログボックスで指定した格納フォルダから、「転送する帳票の種別」で指定した帳票が 16384 個以下になるよう削除します。
- 2) 連携オプションを再起動し、実行します。

新記事

9.6.7 帳票のダウンロード時の帳票数について

帳票のダウンロード処理を実行する場合、【帳票のダウンロード情報】ダイアログボックスの「転送する帳票の種別」で指定した帳票は、【帳票のダウンロード情報】ダイアログボックスで指定した格納フォルダ内に **16383** 個以下である必要があります。帳票は種別ごとにファイルの拡張子が異なります。

- ・ 帳票ファイル(拡張子が.SPM または.MGW のファイル)
- ・ 帳票エントリーファイル(拡張子が.SPN または.NGW のファイル)
- ・ ListWORKS 帳票(拡張子が.SPL または.LGW のファイル)

注)

拡張子が.MGW, .NGW, .LGW となっているファイルは、【TeamMail 連携情報】ダイアログボックスまたは【TeamMail 連携情報】ダイアログボックスまたは【Windows 版 List Works サーバ連携情報】ダイアログボックスで「次回実行時も連携対象とする」をチェックしていない状態で連携処理を実行した時に、連携済みとなったファイルです。

【帳票のダウンロード情報】ダイアログボックスで指定した格納フォルダに、「転送する帳票の種別」で指定した帳票が **16384** 個以上存在した場合、帳票のダウンロード時にエラーとなり、連携オプションのログには `Exec Format Error 20022b0000000008` が出力されます。また、問題を解決せずに ListWORKS 連携オプションを続けて使用するとエラーとなった【帳票のダウンロード情報】定義以外の【帳票のダウンロード情報】定義による帳票のダウンロードも同一のエラーとなる場合があります。

このエラーが発生した場合は、以下の操作を行ってください。

- 1) 【帳票のダウンロード情報】ダイアログボックスで指定した格納フォルダから、「転送する帳票の種別」で指定した帳票が 16384 個以上ある場合は、**16383** 個以下になるよう削除します。
- 2) 連携オプションを再起動し、実行します。

2014年4月4日発行

修正箇所（章節項）： 9.6 連携オプションの運用上の注意事項

旧記事

新記事追加

新記事

9.6.10 振分け条件使用時の注意事項

振分け条件を使用して「Windows 版 List Works サーバへの登録」または「TeamWARE Office への登録」を行う場合、PRIMERGY 6000 の時刻が Windows サーバの時刻より進んでいると、帳票が重複登録されることがあります。（PRIMERGY 6000 上の帳票作成時刻が進んだ時刻を示すことで、帳票が再作成されたと誤認識されることがあります。）PRIMERGY 6000 と Windows サーバの両方で NTP サーバによる時刻補正を行い、時刻を合わせるようにしてください。

以上